

新年度スタート!

入学式・入園式



入学おめでとう



6年生と一緒に入場した学校もありました

中学校	4月8日
小学校	4月9日
こども園	4月8日
※満濃南こども園 4月7日	



お祝いのレイを上級生から



こども園68名が入園、小学校114名、中学校163名が入学しました。



堂々とした態度で式に臨んでいます



おめでとうございます

町合同着任式

(4月1日 満濃中学校ランチルーム)



子どもたちの指導をよろしくお願ひします



歓迎の歌を聴いてください



楽しく充実した園・学校生活を送りましょう!



まんのうの教育

令和8年度の重点

自立へ向かう教育

— 協働を幹にして学びをつくる —

令和8年度 まんのう町学校教育実践指針より



仲よくしよう



新しい友だち よろしく!

1 未来を切り拓く子どもを育てる学校・園づくり

生まれ～



小・中学校

2 一人ひとりの子どもが安心して楽しく過ごせる居場所づくり

こども園

2 一人ひとりの子どもが安心して自分らしくいられる居場所づくり



キターー!!



ばあっ!



楽しい!



私はね～



ほかの考えを聴いて

小・中学校

3 子どもが主体的に学び、ともに学ぶ喜びを実感できる授業づくり

こども園

3 「やってみよう」から広がり、深まる環境づくり



みんなで食べるとおいしい



みんなハッピー

4 学校・園と家庭と地域が連携・協働して子育てにあたる



楽しんでください



絵本読んでー

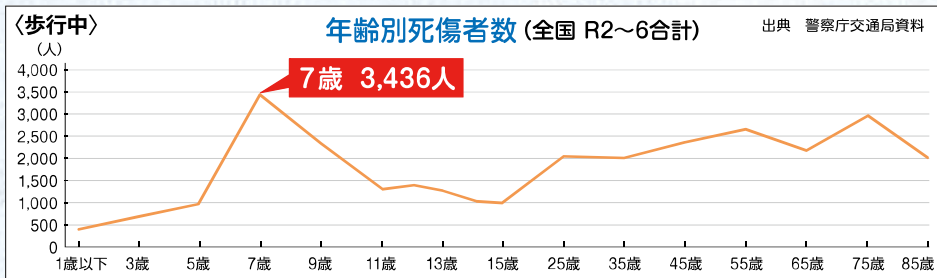


巨ウツロうで大きい!

教育委員会では、教育に当たって大切にしたいことを「学校教育実践指針」として示し、同じ目標に向かって進むように町内すべてのこども園、小・中学校にお願いしています。

各こども園、小・中学校では、今年度も、豊かなつながりとあたたかなまなざしのもとで、子ども一人ひとりが自立に向かう力を身につけていけるよう取り組んでいきます。

魔の7歳！！



「魔の7歳」という言葉を聞いたことがありますか。上のグラフから分かるように、交通事故の年齢別死傷者数は7歳が全年齢の中で一番多くなっています。そこでこの言葉が生まれました。

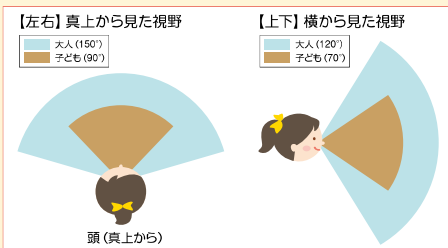
なぜ、7歳の子どもの事故が多いのでしょうか？

● 7歳は、一人歩きの機会が増える

7歳はちょうど小学校1年生。登下校や放課後の友だちとの遊びなど、これまで保護者と一緒だった行動範囲が広がり一人歩きをする機会が多くなります。

● 子どもの視野は、大人の3分の2しかない

右図のように、大人の視野と比べて、子どもの視野は約3分の2しかありません。大人であれば視界に入る自動車も、子どもの場合は視野に入っていないことがあります。



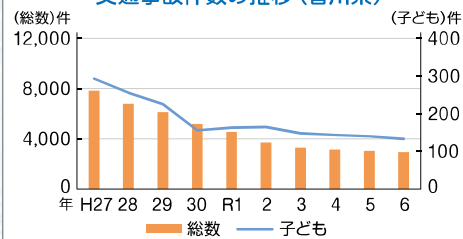
さらに、子どもの特性として大人よりも好奇心旺盛で注意力散漫です。自分の興味のある面白いものを見つけると、それしか目に入らないことも視野を狭くすることに繋がっているようです。

気をつけて！交通安全

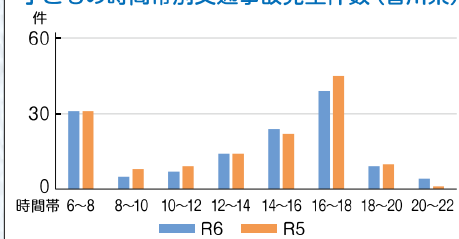


当たり前の日常を一瞬で壊してしまう交通事故。すべての子どもたちに気をつけてほしいのが交通安全です。朝、元気に「行ってきます」と言って家を出た子どもたちが、夕方「ただいま」と帰ってくる。そんな当たり前の日常を守ることは、すべての人々の願いではないでしょうか。今回は、園や学校の交通安全に関する取り組みを紹介します。

交通事故件数の推移 (香川県)



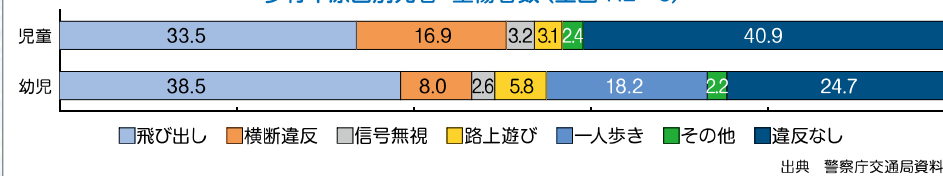
子どもの時間帯別交通事故発生件数 (香川県)



※上の2つのグラフの子どもは、出生から中学校卒業までの者です。

出典 香川の交通 令和6年 香川県警察本部

歩行中原因別死者・重傷者数 (全国 R2~6)



上のグラフを見ると、香川県の交通事故件数は徐々に減っていますが、令和3年からはあまり変化がありません。また、時間帯別の交通事故発生件数を見ると、6時から8時の登校時間帯と14時から18時の下校時間帯と下校後の自由な時間帯が多くなっています。

事故の原因を見ると、児童・幼児ともに**飛び出し**が最も多く、次いで児童は横断違反、幼児は一人歩きになっています。



上級生が1年生に、校内は、自転車を降りて押して歩くことや、自転車置き場の位置や停め方を指導しています。

自転車教室

各小学校では、自転車に乗るときの決まりを作り、子どもたちに指導しています。自転車教室では、警察署員、交通指導員、役場の担当課員などの指導のもと、運動場に道路や横断歩道を描いて、中学年や卒業前の6年生が、信号機に従って安全に走行する練習を行っています。



- <主な学習内容>**
- 自転車の点検（タイヤの空気圧、サドルの高さ、ブレーキのきき具合、ベルなど）
 - ヘルメットの正しい着用の仕方
 - 交差点の通行の仕方（信号機を守るなど）
 - 左側一列通行
 - 確認の仕方、手信号 など



校外の道路で、走行の練習をする学校もあります



中学校ではマナーアップリーダーが、自転車の正しい乗り方について呼びかける



交通安全につながる活動・学習

交通安全キャンペーンに参加する園児



事故防止を考える



救命救急を学ぶ



トラックの内輪差を学ぶ



交通安全教室



入学したばかりの1年生が安全に通行できるように、実際の道路で、警察署員や交通指導員から教わります。

- <主な学習内容>**
- 横断歩道での安全確認の仕方
 - 止まる、待つ、見るの励行
 - 手を挙げて、運転者にしっかり示す
 - 横断中も左右を確認する など



琴南小学校の昨年度の学校教育目標は「心をこころを愛し認め合い、学び合い、自分で考える行動する」でした。特に、自分で考える行動することに重点を置いて、教育活動に取り組んできました。

プロジェクトチーム活動始動

子どもたちに自分で考えて行動する姿が多くみられるようになったのは、「昨年度の2学期末ごろからでした。」
子どもたちは、人権学習の一環としてスマイルパーティー(目標発表会)に取り組んできました。その中で、発表者として出演しない子どもたちが、自主的に集まり、児童会とともに運営にあたりました。
この活動が、やがてプロジェクトチーム活動につながりました。昨年度から、運動会やかしの実発表会(学習発表会)などの学校行事も、子どもたちの活躍の場として設定しました。



1 運動会では



「このおぼろ踊り(おぼろ)の競技は、このおぼろ踊り(おぼろ)と、教師に教わりながら練習する運動会ではありませぬ。ダンスや競技は、子どもたちにまよって構成された

児童の主体性を伸ばすために

琴南小学校



琴南小キャラクター

プロジェクトチームのメンバーでつく上げた運動会でした。チームリーダーの子もたは、練習が始まってからしばらくは、みんなに伝えたいことがうまく伝わらず、投げ出したくなったこともあったでしょう。しかし、メンバーの子もたはしっかりと協力し、めげずに乗り越えていきました。それぞれのチームが、悩みながらも本番をめざして取り組み、運動会当日を迎えました。
当日は、残念ながら一部の全校種目が、天候のために実施できませんでした。しかし、最後までやり遂げた子どもたちの表情には、達成感が満ちています。

2 かしの実発表会(学習発表会)では

4つのプロジェクトチームに分かれた子どもたちが、行きつ戻りつ考えながら、戸惑いながらも、みんなで協力して準備を進め、本番を迎えました。



自分たちで考えながらつくってきた発表会は、思ったとおりに進められたことも、思ったように進まなかったこともありました。しかし、それらのことを、それぞれのチームの一人ひとりが、自分事として受け止めて、心の糧にできたのではないかと感じています。

令和8年度学校教育目標 「心をこころを愛し、学び合い、自分で考える行動する」

「このおぼろ」には、自ら考えて行動することをおぼろとして、仲間と考えをやり取りしながら、自分や周りがある課題を見付け、失敗を恐れず、課題解決に取り組んでほしい、より創造的に活動してほしい、という願いを込めています。

また、子どもたちにも覚えやすく意識しやすい学校教育目標のために、4つの言葉の語尾を「あり」と揃えて、キャッチフレーズにしました。
本年度も、子どもたちにとって、さらに居心地のよい学校となり、子どもたちが様々な活動に、より主体的に取り組み学校をめぐっていきます。

仲南こども園では、自分や友だちを大切に、やさしく思いやられることもあって欲しいと願う日々の園生活を送っています。
子どもたちは、園生活の中で友だちや異年齢児、先生と一緒に様々な経験を通して思いやりや優しさを育んでいます。

詐欺防止のシレットを作った

琴南警察署の警察官や琴南中学校のお兄さんやお姉さんと一緒に、おじちゃんやおばあちゃんに贈る詐欺防止を呼びかけるカードスタンドを作りました。

警察官から「お金を取られる悪い人がいる」「みなさんの写真がついていればカードのパワーが100倍になる」という話を聞き、子どもたちは「おじちゃん」「おばあちゃん」に教える「おじちゃん」「おばあちゃん」に教える写真をスタンドに入れています。また、自分のおじちゃんやおばあちゃんにカードスタンドを渡し、詐欺防止を呼びかけました。



完成したカードスタンドを持って



おばあちゃん プレゼント



タンポポ!

思いやりがいっぱい

仲南こども園



一緒に楽しそう

たのびの友だちと遊ぶと楽しい
登園して、荷物の片付けを終えたと自分の行きたいところへ行って、遊ぶ子どもたちの姿があります。1歳児の部屋を覗くと、5歳児の子どもたちが遊びに来ていました。
朝、おうちの人と離れるのが不安で泣いている子に優しく声を掛けたり、手をつないで遊び誘ったりする姿が見られます。泣いていた子どもたちも、あつという間に笑顔になり、遊び始めます。毎朝のほっこりするひと時です。
広い廊下や園庭のあちこちで、大きいクラスの子が小さいクラスの子を手をつないで、遊び方を教えたりしながら思い思いの遊びを楽しんでいます。遊びを通して互いに刺激を受け、積極的に関わることができる姿が見られます。
年下の子は、お兄さんやお姉さんにあこがれの気持ちを持ち、年上の子は、相手に合わせた関わり方を考えたり、思いやりをもって接したりする経験をしています。



おねえちゃん 大好き



素敵なプレゼントを作りました



調理員さん おいしい給食をありがとうございます

仲南こども園は、開園12年目を迎えています。今後も、思いやりがいっぱいあられる園子どもも大人も元気に笑顔になれる園、地域に愛される園(へりをめざして)を築いていきたいと思っております。

素敵な作品をありがとう!

爽風の表紙の絵は、令和4年8月号から満濃中学校の美術部生徒の作品を使用しています。毎号、たくさんの素敵な作品が応募されています。昨年度一年間に応募された中で、表紙として採用された以外の作品の一部を月ごとに掲載しました。

<p>4月</p>  <p>1年 幡多 梨音</p>  <p>1年 栗原 拓磨</p>  <p>1年 小泉 絢音</p>  <p>1年 松下和佳奈</p>  <p>2年 小西恵里奈</p>	<p>2月</p>
 <p>1年 大西 翔</p>  <p>2年 木村 舞衣</p>  <p>2年 和泉 琴音</p>	<p>12月</p>
<p>8月</p>  <p>1年 長尾 遥</p>  <p>1年 野田 真白</p>  <p>1年 森 愛華</p>	<p>10月</p>  <p>1年 南 ほの花</p>  <p>1年 大平 桃李</p>  <p>3年 近石 絢香</p>  <p>1年 川瀧 梨音</p>
 <p>3年 松下 沙代</p>  <p>2年 篠原 司</p>  <p>2年 道西あおい</p>  <p>3年 長尾 蓮</p>	<p>6月</p>

※学年は作成当時の学年です。

春 旅立ちの時

卒業式・修了式

こども園99名が修了、小学校159名、中学校148名が卒業しました。





中学校 3月13日
小学校 3月17日
こども園 3月18日



どの子も凛々しい表情で参列しています。






町合同離任式

(3月31日 満濃中学校ランチルーム)



子どもたちが大変お世話になりました。新任地でも活躍ください。



在園児、在校生に見送られて、園、学校を後にしました。



おしらせ

まんのう町教育支援機構
少年育成センター「らいむ」所長が替わりました

この度、少年育成センター「らいむ」所長に着任いたしました藤田敬司です。少年育成センターは、少年の健全な育成と非行防止を図るために関係機関や団体の協力を得て、街頭での声かけや環境浄化活動、家庭及び地域への啓発活動を行う組織です。「地域の子どもは地域で守り育てる」環境づくりに努めてまいりますので、ご指導・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



【お詫び】 本号のご家庭への配布が1か月遅延いたしました。申し訳ございませんでした。



編集後記

令和8年度がスタートして2か月がたちました。こども園や小・中学校に入園、入学した子どもたちも新しい生活に慣れてきたころだと思えます。お子さんを園や学校に送り出す家族のみなさんの願いは、楽しい園や学校での生活を終え、元気な笑顔で帰宅してくれることでしょう。

公益社団法人みやざき被害者支援センターでは、人の命の尊さについて考え、事件・事故の被害にあわれた方やその家族のつらく悲しい思いを知り、事件・事故が減少することを祈って、一行詩「生命のこえ」コンテストを行っているそうです。

会ったこともない、話したこともない。
それでも悲しいニュースに胸が痛くなる。
同じくらいの若い人の死。

(令和2年度の中学生の部最優秀作品)

大変残念なことですが、日々事件や事故のニュースが、報道されています。特に子どもが被害者になった時には、それを見聞きするだけで悲しくやりきれない気持ちになります。

「大丈夫。」なぜか安心
なぜなら
すべてに「人」の文字

(令和3年度の中学生の部最優秀作品)

子どもたちを見守り育むのは私たち大人の責任です。たくさんの人に見守られているという思いは、安心につながります。

今回の特集では、子どもたちにも気をつけてほしい「交通安全」を取り上げました。

子どもたちに交通ルールやマナーを教えるとともに、通行する子どもたちの安全に配慮することが子どもたちの安全を守ることにつながります。信号機のない横断歩道を渡ろうとしている子どもの姿を見て、一旦停止する自動車を見かけます。子どもたちへの思いやりをもって、自動車や自転車などを運転することが、交通事故から尊い命を守ることにつながるのではないのでしょうか。

表紙絵：大平 桃李（満濃中学校美術部2年）

次号予告
(8月1日発行)

特集
園・学校ウォッチング

VUCA時代の学校・こども園
四条小学校・満濃南こども園